



マテリアルバンク株式会社 2023 年度 環境経営レポート



(対象期間： 2023年5月 ～ 2024年4月)



発行日： 2024年7月19日

環 境 理 念

未来へ続く持続性のある循環型社会の実現に向けて、経営における課題とチャンスを定期的に明確にし、事業活動全般における環境負荷を可能な限り低減し、地球温暖化対策や地域の環境保全活動にも自主的・積極的に取り組み、継続的改善を図ります。

環 境 経 営 方 針

- 1 環境関連法規制や当社が約束したことを遵守します。
- 2 環境に配慮した廃棄物の収集運搬および処分に取り組みます。
- 3 省エネルギー化を推進して温室効果ガスの排出量削減に努めます。
- 4 事務所の事業系一般廃棄物の削減に取り組みます。
- 5 受託した廃棄物の再資源化に取り組み、リサイクル率の向上を図ります。
- 6 水道の水使用量の削減に取り組みます。
- 7 グリーン購入に取り組みます。（カーボンオフセットへの取り組みも含む）
- 8 周辺地域に配慮した事業活動を行い、クレームゼロを目指します。
- 9 地域の清掃活動を行います。イベント活動などにも積極的に参加して地域貢献いたします。
- 10 この環境経営方針を全従業員に教育・訓練により周知徹底させ、社外にも公開します。

制定日：2015年9月29日
改訂日：2023年8月1日

マテリアルバンク株式会社
代表取締役社長 矢吹 啓

□組織の概要

(1) 名称及び代表者名

マテリアルバンク株式会社
代表取締役社長 矢吹 啓

(2) 所在地

本 社 〒701-0165 岡山県岡山市北区大内田1310番地
GREEN BASE(中間処理場) 〒710-0034 岡山県倉敷市粒江字山ノ奥1885番2、字横谷1886番
岡山積替保管場所 〒701-0165 岡山県岡山市北区大内田字三谷1317番1外3筆
倉敷積替保管場所 〒711-0937 岡山県倉敷市児島稗田町字奥3547番、3548番



(3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

責任者 常務取締役 矢吹 匡 TEL : 086-435-5570
担当者 業務部/GREEN BASE 統括部長 河合 博行 TEL : 086-435-5570

(4) 事業内容

産業廃棄物収集運搬業
産業廃棄物中間処理業
一般廃棄物の処分業 (中間処理)
一般廃棄物の収集運搬業
再資源化物販売
古物商

(5) 法人設立年月日

昭和50年5月1日

(6) 資本金

4500万円

(7) 事業の規模 2023年度実績

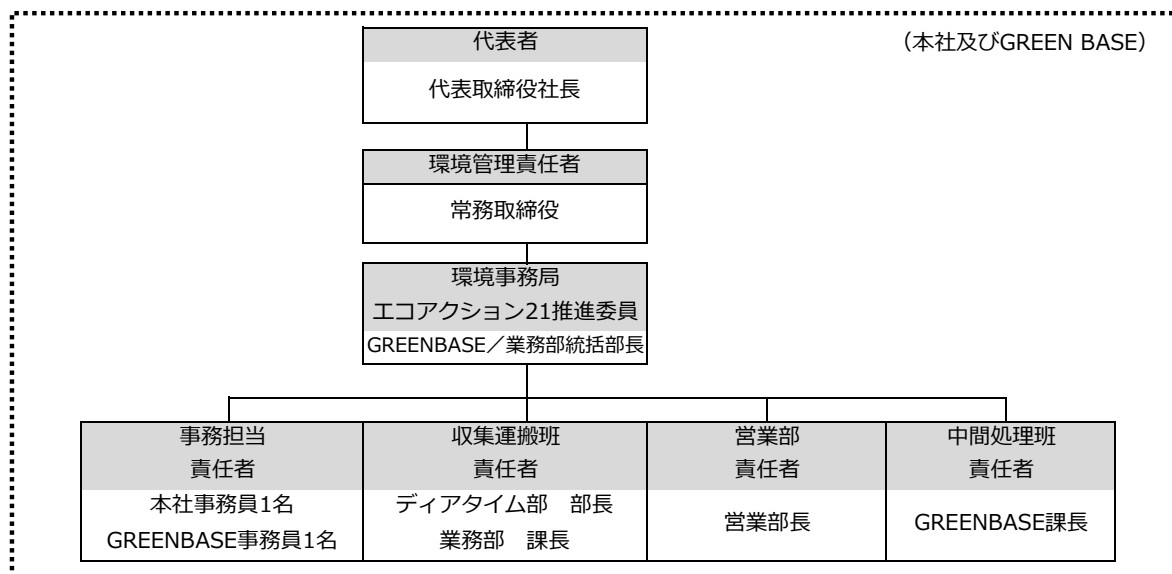
売上高 581百万円
廃棄物の取扱量 21,146 t
(内訳) 産業廃棄物処分量 19,909 t
一般廃棄物 (木くず) 処分 839 t
一般廃棄物 (受託分) 処理 397 t

	本社	GREEN BASE	岡山 積替保管場	倉敷 積替保管場	合計
従業員	26名	28名	-	-	54名
敷地面積 (㎡)	843㎡	5349㎡	1070㎡	1076㎡	8338㎡
延べ床面積 (㎡)	112㎡	74㎡	-	-	185㎡

(8) 事業年度

5月～翌年4月

(9) 組織図



(10) 役割・責任・権限表

代表者（社長）	・環境経営に関する統括責任 ・環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間、技能、技術者を準備 ・実施体制の構築（環境管理責任者を任命） ・環境経営方針の策定・見直し及び全従業員へ周知 ・環境経営目標・環境経営活動計画書を承認 ・代表者による全体の評価と見直し・指示の実施 ・環境経営活動レポートの承認 ・経営における課題とチャンスの明確化
環境管理責任者	・環境経営システムの構築、実施、管理 ・環境関連法規等の取りまとめ表を承認 ・環境経営目標・環境経営活動計画書を確認 ・環境経営活動の取組結果を代表者へ報告 ・環境経営活動レポートの確認
環境事務局	・環境管理責任者の補佐、EA21推進委員会の事務局 ・環境負荷の自己チェック及び環境への取組の自己チェックの実施 ・環境経営目標、環境経営活動計画書原案の作成 ・環境経営活動の実績集計 ・環境関連法規等取りまとめ表の作成及び最新版管理 ・環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施 ・環境関連の外部コミュニケーションの窓口 ・環境経営活動レポートの作成、公開（事務所に備付けと地域事務局への送付）
E A 2 1 推進委員	・環境経営活動計画の審議 ・環境経営活動実績の確認・評価
部門長	・自部門における環境経営方針の周知 ・自部門の従業員に対する教育訓練の実施 ・自部門に関連する環境経営活動計画の実施及び達成状況の報告 ・自部門に必要な手順書の作成及び手順書による実施 ・自部門の想定される事故及び緊急事態への対応のための手順書作成 試行・訓練を実施、記録の作成 ・自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施
全従業員	・環境経営方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚 ・決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加



(11) 許可の内容

一般廃棄物処理業 岡山市

許可番号	第4096号
許可の有効期限	R6.4.1～R8.3.31
許可の種類	一般廃棄物の収集運搬（積替施設 有 保管の高さ1.3m）
許可区域	岡山市

一般廃棄物収集運搬業 倉敷市

許可番号	第124号
許可の有効期限	R5.4.1～R7.2.28
許可の種類	一般廃棄物の収集運搬（積替施設 有 保管の高さ1.3m）
許可区域	倉敷市

一般廃棄物処分業 倉敷市

許可番号	第7号
許可の有効期限	R5.10.10～R7.10.9
許可対象事業	一般廃棄物処分業（破碎）
取扱う一般廃棄物の種類	木くず

産業廃棄物処分業 倉敷市



許可番号	第10020016043号
許可の有効期限	R5.1.4～R9.12.23
事業計画の内容	主として、岡山県内より産業廃棄物を受入れして中間処理を行い、廃棄物の再資源化と減容を行う。
事業の範囲	処分業（中間処理）
事業の区分	中間処理（選別・破碎・切断）
処理施設の種類	選別・破碎・切断施設
処理する廃棄物の種類	(11) の産業廃棄物中間処理施設 参照
処理能力	(11) の産業廃棄物中間処理施設 参照

産業廃棄物 収集運搬業許可

許可自治体		岡山県	岡山市	広島県	兵庫県	香川県	愛媛県	鳥取県
許可番号		第03303016043号	第08310016043号	第03400016043号	第3805016043号	第03709016043号	第3805016043号	第03104016043号
有効期限		R6.3.18～ R11.3.15	R6.5.7～ R11.3.15	R1.12.16～ R6.12.15	R4.5.10～ R9.5.9	R4.11.10～ R9.10.21	R6.7.13～ R11.7.12	R3.1.25～ R8.1.24
積替保管		無	有	無	無	無	無	無
保管上限及び高さ			193.9m/2.0m 71.6m（容器保管）					
許可品目	汚泥	●	●	●	●	●	●	●
	燃え殻							
	廃油	●	●	●	●	●	●	●
	廃酸	●	●	●	●	●	●	●
	廃アルカリ	●	●	●	●	●	●	●
	廃プラ類	●	●	●	●	●	●	●
	紙くず	●	●	●	●	●	●	●
	木くず	●	●	●	●	●	●	●
	繊維くず	●	●	●	●	●	●	●
	動植物性残さ	●	●					●
	ゴムくず	●	●	●	●	●	●	●
	金属くず	●	●	●	●	●	●	●
	ガラス・陶磁器くず	●	●	●	●	●	●	●
	がれき類	●	●	●	●	●	●	●

(12) 施設等の状況

■産業廃棄物収集運搬用車両

車 種	仕 様	台 数
11t～10 t 深ダンプ車	ロングタイプ 深ダンプ (容積 36m ³ ～31m ³)	2
6t アームロールヒアブ車	コンテナ脱着装置付・グラップル (掴み) 付 コンテナダンプ (容積 8・10・13m ³)	1
5t アームロール車	コンテナ脱着装置付 コンテナダンプ (容積 8・10・13m ³)	2
3t アームロール車	コンテナ脱着装置付 コンテナダンプ (容積 8・10・13m ³)	1
3t アームロールユニック車	積載型クレーン付・コンテナ脱着装置付 コンテナダンプ (容積 4m ³)	1
4t ユニック車	積載型クレーン付	8
4t ユニック車	積載型クレーン付 ロングタイプ	1
2t ユニックパワーゲート車	積載型クレーン付 ショートボディ パワーゲート付	1
2t アームロール車	コンテナ脱着装置付 コンテナダンプ (容積 4m ³)	1
2t アルミパワーゲートバン	容積 18m ³	1
軽トラック		2
軽バン		1

■一般廃棄物収集運搬用車両

車 種	仕 様	台 数
3t アームロール車	コンテナ脱着装置付 コンテナダンプ (容積7m ³)	1
2t パッカー車	塵芥車	2
2t アルミパワーゲートバン	容積 18m ³	1
2t アルミバン	容積 17m ³	1
1.5t 幌車	容積 10m ³	1



■産業廃棄物 中間処理施設

施設の種類	処理方式	処理する廃棄物の種類	能力
破砕施設 パワーマイザー	破砕	木くず	80.0t/日
破砕施設 ロータリープレスクラッシャー	破砕	廃プラスチック類	12.1t/日
		繊維くず	12.2t/日
選別施設 振動ふるい機 手選別ライン	選別	廃プラスチック類	161.9t/日
		紙くず	121.4t/日
		木くず	161.9t/日
		繊維くず	97.0t/日
		金属くず	914.8t/日
		がれき類	1,198.2t/日
		ガラス・コンクリートくず・陶磁器くず	809.6t/日
片刃カッター (重機アタッチメント式)	切断	廃プラスチック類	41.6t/日
		紙くず	36.0t/日
		木くず	168.0t/日
		繊維くず	14.4t/日
		金属くず	49.6t/日
		がれき類	134.4t/日
		ガラス・コンクリートくず・陶磁器くず	120.0t/日
両刃カッター (重機アタッチメント式)	切断	廃プラスチック類	93.6t/日
		紙くず	80.0t/日
		木くず	132.0t/日
		繊維くず	32.0t/日
		金属くず	33.6t/日
		がれき類	117.6t/日
		ガラス・コンクリートくず・陶磁器くず	91.2t/日
破砕機 パワーチップパー	破砕	廃プラスチック類	1.178t/日
		木くず	4.06t/日
		ゴムくず	1.751t/日
破砕機 (重機アタッチメント式)	破砕	ガラス・コンクリートくず・陶磁器くず	2.592t/日
		がれき類	4.872t/日





(1 2) 廃棄物の処理実績

2023年度 【運搬実績】

処理方法等	廃棄物等種類	処分方法等	処理量 (t)
■産業廃棄物運搬量 11,212t 	木くず	受託した産業廃棄物の運搬	2,107
	廃プラ類	受託した産業廃棄物の運搬	979
	繊維くず	受託した産業廃棄物の運搬	0
	紙くず	受託した産業廃棄物の運搬	185
	ガラス・陶磁器くず	受託した産業廃棄物の運搬	785
	がれき類	受託した産業廃棄物の運搬	1,069
	金属くず	受託した産業廃棄物の運搬	85
	混合廃棄物	受託した産業廃棄物の運搬	1,286
	(自社処分場以外への運搬) 廃油・汚泥 石綿含有廃棄物 (非飛散) 水銀使用製品 (ほか)	受託した産業廃棄物の運搬	240
	自社産業廃棄物の運搬	自社発生させた産業廃棄物の運搬	42
	廃プラ類	中間処理後の産業廃棄物の運搬	1,949
	ガラス・陶磁器くず	中間処理後の産業廃棄物の運搬	906
	がれき類	中間処理後の産業廃棄物の運搬	1,578
合計			11,212
■中間処理後 有価物運搬量 625t	製鉄原料 (金属くず)	中間処理後の有価物の運搬	157
	製紙原料 (紙くず)	中間処理後の有価物の運搬	0
	木質チップ (木くず)	中間処理後の有価物の運搬	467
	合計		625
■一般廃棄物の収集運搬量 397t	事業系一般廃棄物	一般廃棄物運搬	397
	合計		397

2023年度 【処分実績】

■一般廃棄物（木くず）の処分量		一般廃棄物（木くず）	破碎	839
839t			合計	839
■産業廃棄物の中間処理！ 18,501t		ガラス・陶磁器くず	選別・切断	98
		がれき類	選別・切断・破碎	342
		混合廃棄物	選別・切断・破碎	1,387
	再資源化等 16,674t	木くず	破碎	13,227
		廃プラ類	選別・切断・破碎	1,357
		繊維くず	選別・切断・破碎	0
		紙くず	選別・切断	186
		ガラス・陶磁器くず	選別・切断	749
		がれき類	選別・切断・破碎	1,063
		金属くず	選別・切断	93
	再資源化等量小計			16,674
	合計			18,501
■中間処理後の廃棄物 2次マニフェスト排出分 4,603t	(委託) 最終処分 1,340t	廃プラ類	焼却後・管理型埋立	124
		廃プラ類	管理型埋立	0
		繊維くず	焼却後・管理型埋立	0
		ガラス・陶磁器くず	管理型埋立	502
		がれき類	管理型埋立	713
	(委託) 再資源化等 3,264t	廃プラ類	固形燃料化	129
		廃プラ類	セメント原料化	36
		廃プラ類	焼却焼成後砂再利用	71
		廃プラ類	熔融ガス化	1,669
		繊維くず	焼却焼成後砂再利用	0
		ガラス・陶磁器くず	製品原料として再利用	404
		ガラス・陶磁器くず	路盤材として再利用	76
		がれき類	セメント原料化	683
		がれき類	路盤材として再利用	195
		木くず	木質燃料として再利用	4
	再資源化等量小計			3,268
	合計			4,603
	■中間処理後の有価物 15,301t	木くず	木質原料・燃料として売却	14,733
		紙くず	製紙原料として売却	280
金属くず		製鉄原料として売却	288	
合計			15,301	

□認証・登録の対象組織・活動

登録組織名 マテリアルバンク株式会社

対象事業所 本社

GREEN BASE（中間処理場）

岡山積替保管場所

倉敷積替保管場所

活動：産業廃棄物収集運搬業、産業廃棄物中間処理業、一般廃棄物の処分業（中間処理）

一般廃棄物の収集運搬業、再資源化物販売、古物商

□主な環境負荷の実績（当年度及び過去5年間）

項 目	単位	2023年度	2022年度	2021年度	2020年度	2019年度	2018年度
二酸化炭素総排出量	kg-CO ₂	653,418	673,070	691,536	681,110	710,324	710,776
電力使用量	kWh	187,575	185,038	189,974	201,903	204,604	228,420
ガソリン使用量	L	14,426	14,611	17,477	13,783	13,947	13,956
軽油使用量	L	196,767	205,472	208,957	205,798	216,229	211,492
一般廃棄物排出量（自社のみ）	t	1.6	1.6	1.7	1.7	1.6	1.6
産業廃棄物排出量	t	4,653	4,775	4,832	4,989	5,234	4,793
化学物質使用量	t	0	0	0	0	0	0
総排水量	m ³	3,489	3,558	3,884	3,573	3,525	3,389

□環境目標及びその実績

（１）中長期目標値（3か年）

年 度		2014年度 基準値		2023年度 目標値	2024年度 目標値	2025年度 目標値
I. 二酸化炭素排出量削減						
（総二酸化炭素排出量kg-CO ₂ ÷総取扱量 t）	kg-CO ₂ / t	26.46	→	24.08	23.81	23.55
	対基準（%）	基準値		-9%	-10%	-11%
●電力の使用量削減		12.68	→	11.54	11.41	11.29
（総電力使用量 kWh÷中間処理量 t）	kWh/ t	基準値		-9%	-10%	-11%
●営業車ガソリン使用量削減		1.042	→	0.948	0.938	0.927
（ガソリン使用量 L÷営業取扱量 t）	L/ t	基準値		-9%	-10%	-11%
II. 廃棄物排出量の削減						
●事務所から排出される一般廃棄物の削減	kg	600	→	546	540	534
	対基準（%）	基準値		-9%	-10%	-11%
●受入廃棄物のリサイクル率の向上	リサイクル率	86.8%	→	90.7%	91.1%	91.6%
（処理後再資源化量 t÷中間処理量 t）	対基準（%）	基準値		+4.5%	+5.0%	+5.5%
III. 水使用量の削減						
（総水使用量m ³ ÷中間処理量 t）	m ³ / t	0.173	→	0.157	0.156	0.154
	対基準（%）	基準値		-9%	-10%	-11%
IV. グリーン購入						
●事務用品等のグリーン購入	購入比率（%）	41.0%	→	43.9%	44.3%	44.7%
●カーボンオフセットへの取組	対基準（%）	基準値		+7.0%	+8.0%	+9.0%
V. 収集運搬業務における環境配慮						
●エコドライブ実践と効率の良い収集運搬による軽油の使用量削減	t・km/L ²	0.483	→	0.526	0.531	0.536
（走行燃費 km/L×積載燃費 t/L）	対基準（%）	基準値		+9.0%	+10.0%	+11.0%
VI. 中間処理場における環境配慮						
●廃棄物中間処理作業における軽油使用量削減	L/ t	6.89	→	6.27	6.20	6.13
（処分場の軽油使用量 L÷中間処理量 t）	対基準（%）	基準値		-9%	-10%	-11%
VII. 周辺環境に配慮した作業						
●周辺地域からのクレーム件数 ゼロ継続	件/年	0	→	0	0	0
	ゼロ継続	クレーム件数		ゼロ継続	ゼロ継続	ゼロ継続
VIII. 地域貢献活動						
●活動件数 13件/年 以上	件/年	13件/年以上	→	13	13	13
	13件/年以上	基準値		13件/年以上	13件/年以上	13件/年以上

※電力による二酸化炭素排出量は、中国電力（株）の令和4年度の二酸化炭素調整後排出係数×ニューH（残差）0.552kg-CO₂/kWhを用いて算出した。

※（I-②）電力の使用量削減及び（III）水使用量の削減については、全社消費量の大部分が廃棄物中間処理で消費されている。



(2) 取り組み期間中の実績値

2023年度 (2023年5月 ~ 2024年4月)

年 度		2014年度		2023年度		目標値 に対する 達成度	評価
		基準値		目標値	実績値		
I. 二酸化炭素排出量削減	kg-CO ₂ / t	26.46	→	24.08	19.81	22%	○
D(総二酸化炭素排出量kg-CO ₂)÷A(総取扱量 t)	対基準 (%)	基準値		-9%			
●電力の使用量削減	kWh/ t	12.68	→	11.54	9.04	28%	○
E(総電力使用量 k w h)÷B(中間処理量 t)	対基準 (%)	基準値		-9%			
●営業車ガソリン使用量削減	L/ t	1.04	→	0.95	0.68	39%	○
G(ガソリン使用量 L)÷C(営業取扱量 t)	対基準 (%)	基準値		-9%			
II. 廃棄物排出量の削減	kg	600.00	→	546	360	52%	○
●事務所から排出される一般廃棄物の削減	対基準 (%)	基準値		-9%			
●受入廃棄物のリサイクル率の向上	リサイクル率	86.8%	→	90.7%	93.5%	3%	○
F(処理後再資源化量 t)÷B(中間処理量 t)	対基準 (%)	基準値		+4.5%			
III. 水使用量の削減	m ³ / t	0.173	→	0.157	0.168	-6%	△
H(総水使用量m ³)÷B(中間処理量 t)	対基準 (%)	基準値		-9%			
IV. グリーン購入			→			9%	○
●事務用品等のグリーン購入	購入比率 (%)	41.0%		43.9%	47.8%		
●カーボンオフセットへの取組							
	対基準 (%)	基準値		+7.0%			
V. 収集運搬業務における環境配慮			→			33%	○
●エコドライブ実践と効率の良い収集運搬 による軽油の使用量削減	t・km/L ²	0.483		0.526	0.697		
I(走行燃費 k m/ L)×J(積載燃費 t / L)	対基準 (%)	基準値		+9.0%			
VI. 中間処理場における環境配慮			→			28%	○
●廃棄物中間処理作業における 軽油使用量削減	L/ t	6.89		6.27	4.89		
K(処分場の軽油使用量 L)÷B(中間処理量 t)	対基準 (%)	基準値		-9%			
VII. 周辺環境に配慮した作業	件/年	0	→	0	0	0%	○
●周辺地域からのクレーム件数 ゼロ継続	ゼロ継続	クレーム件 数		ゼロ継続			
VIII. 地域貢献活動	件/年	13件/年以 上	→	13	24	85%	○
●活動件数 13件/年 以上	13件/年以上	基準値		13件/年以上			

注) 評価欄 ○: 達成、△: やや未達成、×: 未達成

※電力による二酸化炭素排出量は、中国電力(株)の令和4年度の二酸化炭素調整後排出係数メニューH(残差)0.552kg-CO₂/kWhを用いて算出した。

※(I-②)電力の使用量削減及び(III)水使用量の削減については、全社消費量の大部分が廃棄物中間処理で消費されている。

★実績値と基準値の根拠となる算出数値		2023年度	2014年度(基準年)
A	①産業廃棄物の中間処理量	19,909t	12,892t
B	②一般廃棄物(木くず)の処分量	839t	552t
C	③収集運搬取扱量(④を含む)	12,234t	7,270t
D	④処理受託した一般廃棄物取扱量	397t	193t
E	総取扱量(①+②+③)	32,982t	20,714t
F	中間処理量(①+②)	20,748t	13,444t
G	営業取扱量(①+②+④)	21,146t	13,637t
H	総二酸化炭素排出量	653,418kg-CO ₂ / t	546,054kg-CO ₂ / t
I	総電気使用量	187,575kwh	170,361kwh
J	処理後再資源化量	19,408t	11,671t
K	ガソリン使用量	14,426L	14,207L
L	水使用量	3,489m ³	2,325m ³
M	走行燃費	5.437km/L	4.503km/L
N	積載燃費	0.128 t/L	0.104 t/L
O	処分場の軽油使用量	101,443L	92,611L



□環境活動計画及び取組結果とその評価、次年度の取組内容

◎よくできた ○まあまあできた △あまりできなかった ×全くできなかった

取り組み計画		達成状況	評価結果と次年度の取組内容
二酸化炭素排出量の削減			○ 目標を達成
* 下記の各項による。			※各項目を参照。 (目標値達成) 年始頃より受入れ処理量の減少が顕著であるが、全員が無駄のない省エネ作業を意識出来たと評価できる。 (次年度) 先行き不透明な社会情勢の中でも確実に結果を残せるように、各項目の達成手段を確実に取組み、より一層の安全徹底、先手の営業活動を行っていく事。
電力使用量の削減			○ 目標を達成
使用をしていない休憩室などの空調は停止させる		◎	(目標値達成) 使用量の大部分を占める処理プラント関連では、今期中は大きなトラブルもなく安定的操業させることが出来た。年初頃より受入れ処理量の減少傾向が顕著となっているが、無駄な稼働が無いように注力出来た。(次年度) 負荷作業を抑えた処理プラント操業を意識し、基本料金の基となる最大需要電力の低下を目指したい。こまめな節電行動を心掛ける。
電力不用時には、機械設備の配電盤からの不可遮断を行う		◎	
処分場の照明設備の清掃		×	
無駄のない機械の稼働を行う		○	
プレハブ事務所の暑さ対策を工夫する。		×	
エアコン内部の清掃を行う(1回/2年程度)		○	
省エネタイプの照明・事務機器への更新		×	
節電運動の継続		◎	
営業車ガソリン使用量の削減			○ 目標を達成
効率的なルートで活動		○	(目標値達成) 先行き不透明な情勢で営業活動にも力が入る中、大変良く取り組めたと評価できる。10月には営業車を2台を新車のハイブリッド車に入れ替え出来た。期間中は交通事故ゼロ。(次年度) 営業活動をより一層注力していかなければならないので、高い意識をもって取り組み、交通事故ゼロ、エコドライブ運転を実践する事。
エコドライブの実践		○	
ゆとりを持った行動を心掛ける		△	
車両の入替時期には環境対策車で検討する		◎	
一般廃棄物の削減(自社の事務所から排出されるもの)			○ 目標を達成
印刷の際はプレビュー確認を行い、間違いの無いようにする		○	(目標値達成) 先期より感染対策や情報漏洩防止策の観点より削減量を伸ばしにくくなっているが、再生できるものを正しく分別し取り組みたと評価できる。(次年度) 継続して事務所ごみの巡回を欠かさず実施し、情報漏洩につながる不適切な廃棄物を排出しないように徹底する事。
社内資料は裏紙を使用する		◎	
資料はFAXではなく、メール送信を心がける		△	
定期的に社内を巡回して廃棄物の確認と分別指導を行う		◎	
受入れ廃棄物のリサイクル率の向上			○ 目標を達成
選別作業による再資源化物の選別量の向上		◎	(目標値達成) 一部の再生受入れ先が長期間受入れ停止している状態化でも、期間を通じて安定したリサイクル率を達成できたと大変評価できる。(次年度) 4月からは新たに行政機関の混合廃棄物の受入れが開始されており、処理困難物増加が予測される。分別作業の精度を落すことなく取り組んで行きたい。一部再生受入れ先が長期間停止している件については、早急に回復できるよう交渉を行う事。
新たな再資源化ルートの開拓		×	
排出事業者(現場など)へ異物混入などの指導と分別の徹底の依頼		○	
受入廃棄物の基準等の見直し		○	
総処理数量に対する木くずの再資源化率を上げる		×	
水道水使用量の削減			△ 目標未達
節水の推進運動		◎	(目標値未達) 処分場に聞き取り調査を実施したが、大きな問題は見受けられなかった。夏期の酷暑が大きく影響を及ぼしたと見られる。問題を受けて「問題点は正/予防処置票」にて対処。安全面からも、処分場の夏場の作業環境改善という新たな課題が見えてきた。(次年度) 漏水・就業点検の実施、こまめな節水運動の継続。夏期以外は過度な散水作業は行わないように注意する事。
処分場での散水方法のルール遵守		◎	
水道配管、ホース先端からの漏水点検		◎	
散水栓を長時間使用しない時は元栓から確実に閉じる		○	
自動散水など節水機器の導入		×	
グリーン購入比率向上			○ 目標を達成
グリーン購入の推進運動		○	目標値達成。日々の地道な取り組みが実行出来た。次年度より「グリーン購入比率向上」の環境経営方針は廃止とし、働き方改革に取り組む目標に変更する予定。(次年度) 廃止
グリーン購入表に従って確実にグリーン購入を実施する		○	
購入品の新しい商品の情報を細目にチェックする		△	
収集運搬業務における環境配慮			○ 目標を達成
効率的なルートでの運行		○	(目標達成) 大きなトラブルや事故もなく環境に配慮した業務遂行が出来た。年初より業務量の低下が顕著化してきている。そうした中でも、3月には一廃許可車両を1台、4月には産廃許可車両を1台、新車導入することが出来た。旧車両2台は廃車とした。(次年度) 更なる先行き不透明な状況が予測され、先手の改善と取り組みが要求される。運行管理システムを最大限に活用して安全業務の指導を徹底する事。
配車システム導入の検討		×	
エコドライブの実践		◎	
収集運搬業務の技術指導の強化		○	
運行管理の徹底		◎	
中間処理業務における環境配慮			○ 目標を達成
重機のエコ操作		○	(目標値達成) 燃料費は高止まり状態で処理量も少しずつ減少をする中、全員の高い省エネ意識が要求された。データーを掲示し周知するなど工夫もして、年度を通して省エネを意識した処理作業が出来たと評価できる。(次年度) 処理量が低下する事も見据えて無駄な重機作業は行わない事を徹底させる。処理プラントの状況報告は迅速に行い、施設の改善計画も建てる事。
重機の点検整備と日常点検		◎	
受入量と出荷量のバランスを考えた処理計画の実施		○	
安全で効率の良い作業へ改善を行いルール化		△	
排出事業者(現場など)様へ受入れ基準順守のお願い		○	
稼働時間が多くなった重機は、新車への代替えを検討する		◎	
周辺環境に配慮した作業			○ 目標を達成
排水口の清掃点検と排水処理施設の定期的な清掃		◎	(目標値達成) 期間中に問題となるような大きなクレーム等は発生しなかった。一つひとつ達成手段を実践した結果と評価できる。(次年度) 問題となりそうだった事案については、社内会議で共有して早急に対策を講じる事。社内SNSを活用して素早い情報共有とホウレンソウの徹底を行う。
排水処理施設からの放流水の水質検査(年1回)		◎	
散水を行い処理工程で発生する粉塵防止		◎	
処理現場外への廃棄物の飛散防止対策(飛散網や飛散ネット)		◎	
強風時には作業内容を変更する		○	
搬路にあたる公道の安全確認(随時)		○	
社員教育		○	
収集運搬現場での厳守事項の徹底と情報の共有		◎	
搬入業者様へ安全な積荷での搬入のお願い		△	
地域貢献活動			○ 目標を達成
少人数でも工夫して活動継続努力		◎	(目標値達成) 計画通り確実に活動を実行出来た。(次年度) 計画通りに確実に活動を実施して行く事。地域より様々な要請があれば積極的に取り組んで行く。
周辺地域の清掃活動		◎	
地域主催のイベントに参加		○	
いつでもどこでも誰にでも気持ちの良いあいさつを行う		○	

□環境関連法規等の遵守状況の評価の結果

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りである。

適用される法規制	遵守すべき要求事項（施設・物質・事業活動等）	遵守評価
廃棄物処理法	一般廃棄物と産業廃棄物の収集運搬および処分業許可の取得（確認） 産業廃棄物収集運搬時の表示、書類携行 産業廃棄物の積み替え・処分のための保管に係る掲示 産業廃棄物の保管期間と基準 管理票の交付と保管 運搬受託業者としての管理票交付者への送付期限 処分受託業者としての管理票交付者への送付期限 産業廃棄物管理票交付等状況報告書の提出 産業廃棄物処理実績報告書 処理困難時の通知 処理困難通知受け時の措置及び報告書提出 産業廃棄物処理責任者の設置(2024/4/19 確認) 技術管理者の設置(2024/4/19 確認) 産業廃棄物処理施設の設置許可(2024/4/19 確認)	遵守
消防法（指定可燃物）	指定可燃物の取り扱いに関する基準の遵守 火災の発生のおそれのある設備の設置に関する基準の遵守 消火器の設置と維持	遵守
貨物自動車運送事業法 ※2024/6/30まで（予定）	運行車両の日常点検と定期点検の実施 運転者適性診断の実施 貨物運送事業の実績報告書	遵守
電気事業法	電気設備技術基準の維持 保安規程の制定、届出、遵守 電気主任技術者の選任と届出 報告書の提出	遵守
計量法	特定計量器の定期検査	遵守
振動規制法	特定施設設置届出(2024/4/19 確認)	遵守
騒音規制法	特定施設設置届出(2024/4/19 確認)	遵守
フロン排出抑制法	第一種特定製品（エアコン仕様の建設重機）の簡易点検と記録の保管 業務用エアコン・冷凍冷蔵庫機器を廃棄する際にフロン回収義務（証明書の保管） (2024/4/19 確認)	遵守
浄化槽法	浄化槽の保守点検・清掃・検査	遵守
自動車NO _x ・PM法	排気ガス規制に適合した自動車の使用（車種規制）	遵守
特定家庭用機器再商品化法	受託を行った家電4品目及び自社使用済み家電4品目の廃棄	遵守
労働安全衛生法	フォークリフトの定期自主検査の実施 車両系建設機械の定期自主検査の実施 粉じん対策 騒音からの保護 健康診断の受診	遵守

2024年4月19日の環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境関連法規制等は遵守されていました。

なお、関係当局よりの違反等の指摘は、過去3年間ありません。

□代表者による全体の評価と見直し・指示

■環境経営方針⇒見直し ☐要・否 ■環境経営目標・計画⇒見直し ☐要・否 ■実施体制⇒見直し 要・☐困

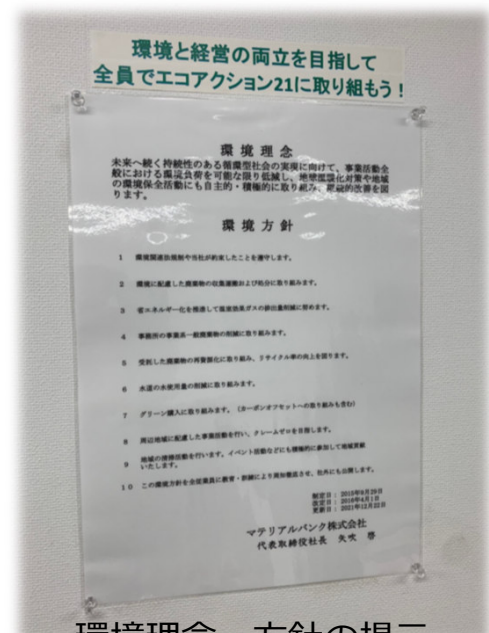
今期はコロナによる影響の緩和と社会活動の正常化が進みました。その一方で、世界情勢の緊張は収まらず、ますます先行き不透明な情勢が続いている状況です。弊社においても、年初頃より物価高による消費の落ち込みの影響で、廃棄物の受入れ処理量の低下が顕著化しています。そのような中でも今期は、営業車、収集運搬車、処理重機を環境対策車へ入れ替える事も出来ました。エコアクション21の取組み活動においても、コロナ禍以前のように積極的に取り組めた結果だと大変評価出来ます。

次年度より、新たに働き方改革の1つである有休取得率の向上を目標とします。この厳しい状況化に打ち勝つために、課題とチャンスを意識した取組みを実行して行きます。全員で丸となって一層の安全作業の徹底と先手の営業活動をお願いします。

2024年6月19日

代表取締役社長 矢吹 啓

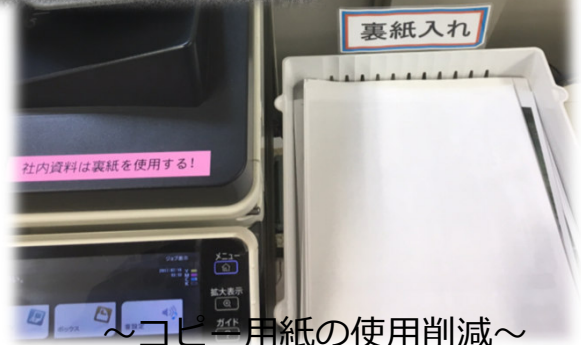
□環境目標取り組み状況



～環境理念・方針の掲示～

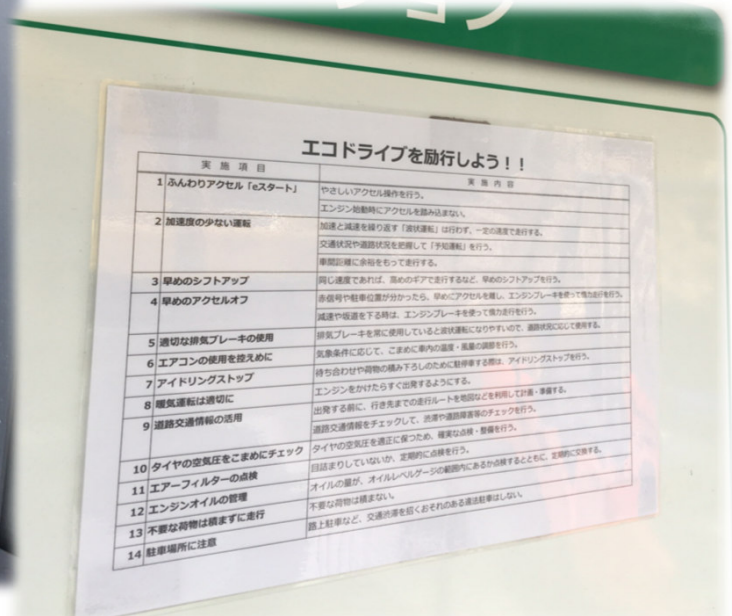


～紙くずの再資源化～



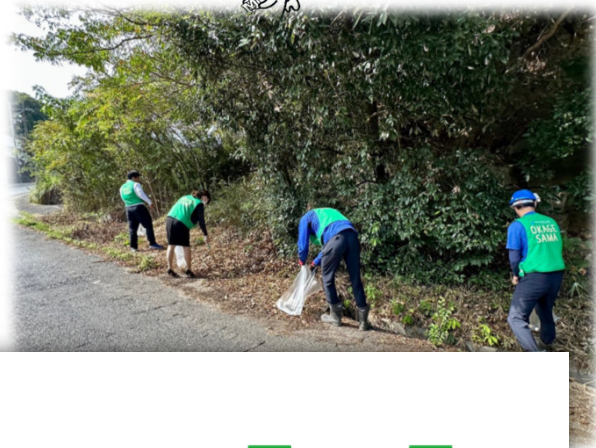
～コピー用紙の使用削減～

～節水運動～



～エコドライブへの実践取り組み～

～CSR活動の紹介～



清掃活動

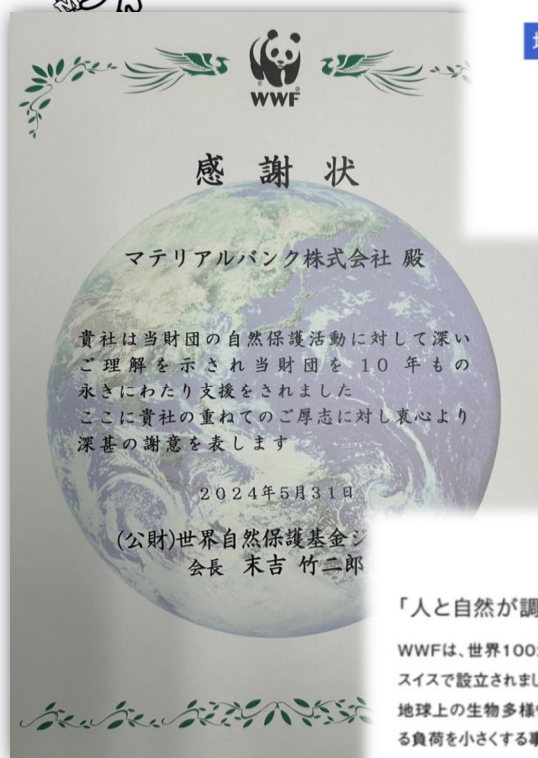
平成25年10月に当社の中間処理場を倉敷市粒江に移転し、GREEN BASEとして営業を再開したのを機に、施設周辺の環境美化や環境保全を目的に清掃活動を開始しました。

そしてさらに、地元の人々や命を育む自然などに対する感謝の気持ちも胸にこの活動に取り組んでいこうということから、平成27年5月には、清掃活動チーム「OKAGESAMA」を社内に結成し、岡山の本社周辺や倉敷のGREEN BASEに隣接する市道の沿線約3kmにわたる地域などを対象に、それぞれ月に1回程度清掃活動を実施しています。

この活動を通して得られる様々な気づきや感動なども大事にしながら「お陰様の精神」でこの取り組みを続けていきます。



環境保全活動支援 (WWFジャパン法人会員)



マテリアルバンク株式会社 様

金額：¥ 200,000 -

振替：法人会費として

2024年5月1日～2025年4月30日

公益財団法人 世界自然保護基金(WWF)
東京都港区赤坂1丁目4番12号
三田陽一郎ビル 3F
登録番号：T4010403000292

WWF® and ©1986 Panda Symbol are owned by WWF. All rights reserved.

「人と自然が調和して生きられる未来を目指す。」

WWFは、世界100カ国以上で活動している地球環境保全団体です。1961年にスイスで設立されました。人と自然が調和して生きられる未来を築くことをめざして、地球上の生物多様性を守ること、人の暮らしが自然環境や野生生物に与えている負荷を小さくする事を柱に活動を展開しています。

マテリアルバンクは、その理念と活動に賛同し2015年よりWWFジャパンの法人会員としてWWFの環境保全活動を支援しています。



毎年日本赤十字社への寄付も行なっております



慈善活動（世界の子ども達へのワクチン支援）



©UNICEF/UNI183996/Bindra 提供：（公財）日本ユニセフ協会

当社では、平成29年1月9日より、当社の役員及び従業員とその家族で構成される「マテリアルバンク共同支援会」によるペットボトルキャップ収集活動及び社内募金活動を実施しています。

矢吹社長の「**命の絆宣言**」で開始されたこの活動は、世界中で子どもの命と健康を守る活動をしているユニセフの支援ギフト事業への協力を通じて、開発途上国の子ども達へワクチンを届けることを目的としています。

「私たち一人ひとりのささやかな善意を集めることで、救える命があるのなら」という思いを皆で共有

し、ペットボトルキャップを集め売却して得られた収益金と社内募金で集まった支援金とを合わせて、ワクチン支援に限定した形の寄付を行っています。

令和6年6月11日

マテリアルバンク共同支援会

代表 矢吹 啓

マテリアルバンク共同支援会活動報告 （R5年度）

- 活動期間 令和5年5月1日～令和6年4月30日
- 活動内容 募金活動及びペットボトルキャップ収集活動
※集めたペットボトルキャップは、廃プラの買取業者に売却し現金化。
- 活動目的 ユニセフ（国連児童基金）を通じての世界の子ども達への
はしかワクチン支援
※はしかは、世界の幼い子どもたちが命を失う主な原因のひとつ。

■ R5年度活動結果

・募金総額

9,865円・・・①

・ペットボトルキャップ売却代金

14kg（総重量）×21.4円/kg = 300円・・・②

①+②=10,165円（R5年度活動成果）

（参考）

総重量 = 約14,000g（14kg）

総個数 = 約6,035個（1個あたりの重さを2.32gで計算）

※ペットボトルキャップ売却単価

21.4円/kg（進徳貿易様ご協力単価）

■ R5年度分支援内容

支援総額10,000円 約128回分のはしかワクチンを支援

※78円/回

■ 収支報告

{215円（R4年度繰越金）+10,165円（R5年度収入）} - 10,000円（R5年度支）
= 380円（R5年度繰越金）